

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	618 森林環境創造事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	02	林業費
基本 施策	42 持続的で個性的な農林業を実践する	目	02	林業振興費
		細目	322	森林振興経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	森林環境創造事業
担当部課	コード	191200	担当者	馬場 俊行
	名称	産業建設部農林振興課	氏名	連絡先 43 - 2301 (内線) 332

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	環境林整備計画に基づき、森林ゾーニングで環境林に区分された森林 伊賀市、森林所有者、施行事業体	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市、森林所有者、施行事業体との間における管理協定(20年間)の契約締結により除伐、間伐等の施策で多面的機能を有する森林の保全管理を行います。森林の公益的機能が低下している又は低下が予想される森林を、適切な整備及び保全を進め、水源の涵養や保全などの将来にわたる森林の有する多面的機能を向上させることができます。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 14 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	森林環境創造事業実施要領
H21 事業 内容	伊賀市、森林所有者、施行事業体との間における管理協定(20年間)の契約締結により除伐、間伐等の施策で多面的機能を有する森林の保全管理を行いました。 除伐 3.73ha 受光伐 1.59ha 間伐 119.60ha 現地調査(周囲測量を行う事務[コンパス測量程度]) 67箇所 巡視・確認 32.02ha	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
除伐		ha	目標	24.85	目標	3.73
			実績	24.85	実績	3.73
間伐		ha	目標	50.19	目標	59.15
			実績	56.93	実績	121.19

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
環境林整備面積		間伐、除伐、受光伐の実施面積をもって指標とします。	ha	目標	75	目標	63
				実績	82	実績	124.92
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	17,718	33,919	16,643	30,090				
Aの 財源 内訳	国庫支出金		16,222	5,000	15,000			
	県支出金	14,121	14,118	9,314	12,000			
	地方債							
	その他	0	0	0	0			
一般財源	3,597	3,579	2,329	3,090				
事業投入人件費(B)	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600				
フルコスト(A)+(B)	21,318	37,519	20,243	33,690				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人(の力)だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的な内容、根拠となるデータ等判断理由】		国は京都議定書で定められたCO2削減目標を達成するため、森林吸収目標を定め、間伐等の実施を促進している。 このため、市としても伊賀市特定間伐等促進計画を策定して森林整備を進めることとしている。
京都議定書で定められたCO2削減目標を達成するため、国として間伐の実施を促進している。		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	三重県ゾーニングで生産林となっている森林については、環境林への変更手続きを行います。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 昨年度3地区の環境林整備計画を認定。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	服部 伊久夫
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 市内の森林は、木材価格の低迷などから手入れがされず放置された森林が多い状況となっている。特に林道から離れているなど、不便な森林においては、それが顕著となっており、森林の持つ公益的機能は著しく低下している。当該事業は森林を環境林として整備することにより、森林の持つ公益的機能を向上していくことから、現状維持としたい。
現時点における課題、その他	・森林の荒廃による公益的機能の低下 ・山林災害の発生
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	各事業地ごとに20年間の計画で環境林整備を進め、森林の持つ公益的機能を向上させる。